

事務事業名 ちくしの歴史・文化発信事業

出力日：令和05年04月27日

キーコード：694

施策：	21	歴史・文化の継承と振興	財務コード	01090608-03-00
基本事業：	03	歴史学習の機会提供	担当部	教育部
基本事業の成果指標	歴史・文化に関する学習会等に参加した市民の数 歴史・文化に関する体験学習等に参加した児童・生徒の数		担当課	文化財課
			担当係	博物館担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分			実施計画	
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
市民、在勤・通学者、福岡都市圏住民 教育・研究機関 歴史、文化・芸術関係団体			常設展は通年展示しており、古くから交通の要衝としてさまざまな人やモノの交流があった本市の特徴を生かして「交易と旅」をテーマとし、原始から近代に至る「通史」を展示  企画展を年4回実施 ものがたりからみる武蔵寺縁起展 伝えよう！阿志岐山城跡展 古文書からの伝言其の二展 僕の昔のくらし展						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			○ロビー展示を5回実施 武蔵寺のたからもの 筑紫野市の日本遺産 描かれた五郎山古墳 伝えよう！阿志岐山城跡 時代を写す道具						
地域への理解を深め、市民の自治能力の向上を図ります。市民に対し、学習意欲の喚起を促し、地域学習の推進を図ります。 市の施策・事業や市民活動に対し、資料提供、助言を行なうとともにこれを支援します。 学校教育に対し資料提供、並びに教育支援を行います。			○学習支援は 小学校や地域等への職員の派遣、コミュニティセンターでのパネル展示の支援、博物館ボランティアの活動支援、SNSを活用した「ぶらりちくしの」（ツイッター）による学習情報の発信、小学校への昔の道具の貸出、貸出資料のパッケージ化及び貸出を実施						
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	02年度 実績	03年度 実績	04年度 当初	05年度 要求	06年度 計画	07年度 計画	目標
問い合わせへの学習支援数		回	247	168	300	200			
来館者数		人	4,671	5,667	16,000	10,000			
5. コスト									
事業費		計	千円	1,620	1,606	2,046	2,041		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他	千円	0	0	0	0		
一般	千円	1,620	1,606	2,046	2,041				
正職員人工数		人工	1.5	1.5	1.5				
正職員人件費		千円	12,044	11,882	11,592				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	13,664	13,488	13,638	2,041			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている  どちらかといえばあがっている  あがっていない（停滞・低下）		令和3年度は、企画展4回、ロビー展示5回を実施しました。また新型コロナウイルス感染症の流行により館内での体験学習は昨年に引き続き中止せざるを得ませんでした。令和2年度から開始したSNSで学ぶ歴史と文化事業（ツイッターによる学習情報の発信）第2弾「ぶらりちくしの」の実施、小学校3年生社会科の授業支援を目的に昔の道具（民俗資料）の貸出を継続するとともに、新たにパッケージ資料の貸出を始めました。臨時休館や体験学習の中止により入館者数は伸びませんでしたが、来館できなくても歴史学習ができる環境づくりを進めるとともに、資料の貸出の充実を図っています。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし		令和2年度から1名の正規職員及び2名の会計年度職員が学芸員として配置されたが、博物館学芸員としての経験がなく、学芸員のみで企画展示や学習支援が実施できず、学芸員の育成が、現在最も大きな課題です。				
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり						
成果向上余地	大きい								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）									
改善方向性			維持		見直し		廃止 事業終了		
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
常設展については、開館から24年を経過し、映像機器、照明機器及び展示設備に老朽化による不具合が生じ、見学に支障が出ています。常設展のリニューアルに向け検討が必要です。			博物館を含む文化財課のホームページをリニューアルし、来館しなくても様々な情報や学習情報を提供できる環境を整えることで、市民の歴史学習の機会を得るための選択肢が増え、また利便性が高まると考えます。リニューアルに向け検討が必要です。当面は、SMSを利用した学習情報の発信や貸出資料のパッケージ化などを中心に進めていきたい。						
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）			備考・特記事項 or 進行管理欄						
平成30年度に正規職員の学芸員が退職し、令和2年度に文化財技師が博物館学芸員として配置されたが、収集資料に精通し、多分野の資料を適正に取扱い、企画展や学習支援を行うには数年の育成期間が必要である。博物館学芸員としての知識と技術の継承をいかに行うかが今後の課題である。									

施策：	21	歴史・文化の継承と振興	財務コード	01090608-04-00
基本事業：	03	歴史学習の機会提供	担当部	教育部
基本事業の成果指標	歴史・文化に関する学習会等に参加した市民の数 歴史・文化に関する体験学習等に参加した児童・生徒の数		担当課	文化財課
			担当係	博物館担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～	新規・継続	継続	会計区分	実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）			
市民や市外住民 教育・研究機関 団体・グループ		市民の財産である郷土の文化財を収集し、恒久的な保存を図ります。収集された資料の活用を図るため、整理作業（目録の作成や台帳の整備）を行います。市民の学習や社会活動に必要な歴史・文化資料を収集し、資料を活用できる状態に整理・整備を行います。貴重なもの、状態が悪いものは、修復やレプリカを製作し保存・活用を図ります。 I P M：総合的有害生物管理に基づく日常管理を行い、資料を適切に保管します。			
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）					
資料を収集し、適切に保存・管理を行い、貴重な文化財を後世に伝えていきます。また、整理及び修復を行い活用できる状態にします。					

4. 成果（簡易評価は未記入）								
成果指標名称	単位	02年度 実績	03年度 実績	04年度 当初	05年度 要求	06年度 計画	07年度 計画	目標
収蔵点数	点	236,658	242,179	239,000	245,000			
活用点数	点	2,241	1,281	2,500	1,000			
5. コスト								
事業費	計	千円	1,097	993	1,133	1,154		
	国	千円	0	0	0	0		
	県	千円	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他 一般	千円	0	0	0	0		
正職員人工数	人工	0.3	0.5	0.3				
正職員人件費	千円	2,409	3,961	2,318				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円	3,506	4,954	3,451	1,154			

6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）	
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）	大賀禮太郎家文書は目録作成を進めているところですが、令和2年度は4200点の目録を作成し、その成果を秋の企画展において広く市民に公開しました。令和3年度は4770点の目録作成を終え、令和4年度に企画展を開催予定です。収蔵資料については、保存すべき資料と学習支援の一環として貸し出せる資料の整理を進めるとともに、展示や通常貸出の他に、貸出資料をパッケージ化し、さらなる活用を図っています。総合的有害生物管理（I P M）に基づいたモニタリング結果を検証し、日常清掃に反映させ博物館の適正な環境管理を行い、虫の食害から収蔵文化財を守っています。新たに収蔵した資料は、計画的に整理し適正な保管を進めています。郷土資料の収集については、収蔵スペースに限りがあるため、文化財としての価値を慎重に判断しながら進めています。

7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）			
対象動向	維持	類似事業	なし
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり
成果向上余地	大きい		

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）	改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
--------------------------	-------	----	-----	----	------

改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）	
古文書に特化した展示会を開催している近隣の市町はなく、古文書は将来本市の目玉となる資料の一つです。業務に精通した正規職員の育成・設置を行うことで、今後も継続して整理を行い成果を公開することができます。修復が必要な資料については計画的に予算化するとともに、業務にあたる知識を有した学芸員の育成が必要です。	館内の温湿度管理については、既存のシステムが数年前から故障しており、現在、職員が巡回し記録しています。常設展示室内の特に細かな温湿度管理が必要なものについては、部分的に観測機器を設置し温湿度管理をしています。適正な展示・保存環境の維持のため温湿度管理システムの更新が必要です。
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）	備考・特記事項 or 進行管理欄
地域の歴史・文化の学習、市民活動に供するため、資料を収集し、適切に保存・管理しています。都市化により、文化遺産は失われつつある一方、市民の地域文化に対する意識は高まり、文化財・文化遺産等の資料や情報の提供要望が増えています。	

施 策：	21	歴史・文化の継承と振興	財務コード	01090608-07-00
基本事業：	03	歴史学習の機会提供	担当部	教育部
基本事業の 成果指標	歴史・文化に関する学習会等に参加した市民の数 歴史・文化に関する体験学習等に参加した児童・生徒の数		担当課	文化財課
			担当係	博物館担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成13年度 ~	新規・継続	継続	会計区分		実施計画
1. 対象 (誰、何に対して事業を行うのか)		2. 手段 (事務事業の内容、やり方、手順)				
市内外からの見学者		国史跡五郎山古墳及び古墳館における下記の事業を行い、学習の場としての適切な公開活用を図るとともに、見学者等の学習要求に応え、館の運営を行います。開館時間(9:00~17:00、月曜日休館)、入館料無料  古墳の出土資料等の見学・学習映像の視聴 可動式実物大模型による古墳石室体験・細部見学 タッチパネルによる装飾古墳の学習 学校休期間における装飾古墳等に関するイベントの実施(夏休み装飾古墳アート：石に古墳壁画の絵を描く模擬体験、ストローを管玉に見立てたアクセサリ作成)・冬休み段ボール織り(古代布織り)・小学校等の団体見学など 装飾古墳関係図書閲覧・解説パンフレット(多言語)等の提供				
3. 意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)						
五郎山古墳をはじめ、九州の特徴でもある装飾古墳への公開活用を行い、地域の歴史・文化の学習意欲を喚起し、地域の歴史文化に対する理解を深めます。						

4. 成果 (簡易評価は未記入)								
成果指標名称	単位	02年度 実績	03年度 実績	04年度 当初	05年度 要求	06年度 計画	07年度 計画	目標
来館者数	人	2,060	2,625	5,000				6,000
装飾古墳アートイベント参加者	人	0	0	1,000				1,100
5. コスト								
事業費	計	千円	6,610	7,218	8,075	8,249		
	国	千円	0	0	0	0		
	県	千円	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他 一般	千円	0	0	0	0		
正職員人工数	人工	0.2	0.3	0.4				
正職員人件費	千円	1,606	2,376	3,091				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円	8,216	9,594	11,166	8,249			

6. 成果状況及びコメント (簡易評価は未記入)	
あがっている  どちらかといえばあがっている  あがっていない(停滞・低下)	令和3年度の来館者数は2625人で、令和2年度の2060人と比べ565人増加しましたが、コロナ禍前の人数には及びません。来館者数が伸びない要因は、新型コロナウイルス感染症の流行による臨時休館(5/12~6/20、8/7~9/30)及び学校休期間中のイベントの中止(ストーンアート等)、石室保護のため実物古墳石室の一般公開を中止しているためと推察されます。このような状況ではありますが、博物館においてストーンアート等のイベントの実施やロビー展示、PRチラシの作成、開館20周年を記念したパネル展示を古墳館で開催するなど入館者を増やす取組みを継続して行なっています。

7. 評価及びコメント (簡易評価は未記入)			
対象動向	維持	類似事業	なし
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	なし
成果向上余地	中程度		

8. 改善改革案 (簡易評価は必要な場合のみ記入)	改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
---------------------------	-------	----	-----	----	------

改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用(維持/事業終了の場合は記入する必要なし)	
市内在住者の来館を増やすためには、地元の原田地区以外の地域の認知を高める必要があると感じます。今後も博物館でストーンアート等の体験イベントを実施し、二日市地区などの市民に装飾古墳の魅力伝え、古墳館への来館を促したい。	
事業開始背景及び現在の環境変化(市民・議会等の要望)	備考・特記事項 or 進行管理欄
平成13年度開館。 平成28~令和元年度 保存整備事業を実施。 (古墳館の映像設備等の改修は令和元年度に実施) 令和3年5月18日で開館20周年	新型コロナウイルス感染症の流行のため5/12~6/20、8/7~9/30臨時休館、学校休期間事業の中止(ストーンアート等)学校等団体受入れを中止 石室保護のため、令和2年度から実物古墳石室の一般公開を中止

事務事業名 ちくしの子ども劇場補助事業

出力日：令和05年04月27日

キーコード：608

施策：	21	歴史・文化の継承と振興	財務コード	01090608-09-00
基本事業：	04	文化・芸術活動の推進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	子育て世代の親子を対象とした文化・芸術鑑賞に関するイベント参加者数 文化会館を拠点とした文化・芸術鑑賞に関するイベント参加者数		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	文化振興・図書館担当



事務事業が貢献すべき成果

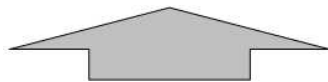
計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画			
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）							
ちくしの子ども劇場			<p>&lt;概要&gt; ちくしの子ども劇場は、昭和55年に福岡子ども劇場から独立、平成13年にNPO法人となった。文化芸術活動、自然体験、異年齢集団遊びなどを通して、地域の中で子どもたちがいきいきとした子ども時代を過ごせる環境づくりを目指して活動する団体。</p> <p>&lt;主な事業&gt; 子ども市、子どもキャンプ、地域活動、子どものための優れた舞台芸術に関する事業、表現活動に関する事業、子どもの権利条約普及啓発事業、子育て支援</p> <p>&lt;補助対象事業&gt; 社会教育振興事業補助金として、子どものための優れた舞台芸術に関する事業に対し交付している。</p>							
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）										
対象の事業を推進し、子どもたちの文化芸術への関心を高め、文化芸術活動への参加意欲を喚起する。さらには、子どもたちが、文化芸術に触れることで、豊かな感受性を育まれることを目指す。										
4. 成果（簡易評価は未記入）										
成果指標名称		単位	02年度 実績	03年度 実績	04年度 当初	05年度 要求	06年度 計画	07年度 計画	目標	
補助対象事業への参加人数		人	1,150	1,298	1,875				2,200	
5. コスト										
事業費		計	千円	100	100	100	100			
		国	千円	0		0	0			
		県	千円	0		0	0			
		地方債	千円	0		0	0			
		その他	千円	0		0	0			
一般	千円	100	100	100	100					
正職員人工数		人工	0.1	0.1	0.1	0.1				
正職員人件費		千円	803	792	773					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	903	892	873	100				
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）										
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		<p>&lt;状況&gt;傾向としては、補助対象事業全12公演の参加人数は減少している。 &lt;原因&gt;母親の就労や住民異動によって会員数が減少している。 &lt;成果指標&gt;令和4年度は、平成30年度から令和元年度の平均に10%を加えた目標とした。</p> <p>コロナ禍にありながらも、年間12公演が実施できたことは評価できる。各イベントが開催中止になる中、子ども達に文化芸術を体験させる活動の最後の砦ともいえる。</p>								
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）										
対象動向	維持	類似事業	なし	子どもたちの発達に沿った生の舞台公演をはじめ、地域活動を実施。子どもたちの芸術に親しむ機会を提供し、親子で芸術文化活動への参加意欲を高めた。						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし							
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし							
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	なし							
成果向上余地	中程度									
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）						改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）										
<改革案> 29年度から補助対象事業を舞台芸術鑑賞に関する事業とし、その参加状況を成果指標とした。団体予算に対する補助事業の割合は約43%を占めるため、今後も参加者の減少が進めば補助対象事業の縮小が懸念される。開催頻度や舞台の質を維持するために、補助金を有効活用したい。					<必要性> 優れた芸術家を安価で招くなど、プロデュースは県下の子ども劇場随一と言われており、文化施設からも高い評価を得ている。チャリティーコンサートでは、文化会館を満席にした実績がある。本市の文化芸術振興には欠かせない団体である。					
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄					
2001年「子どもたちが地域の中で、豊かに生き生きとした子ども時代を過ごすための環境づくり」を目指し法人として設立された。					小学校への芸術家派遣事業（アウトリーチ）を検討する中で、芸術家と学校との調整を行うコーディネーターの役割を担ってもらいたいと考えている。					

事務事業名 市文化協会補助事業

出力日：令和05年04月27日

キーコード：622

施 策：	21	歴史・文化の継承と振興	財務コード	01090608-10-00
基本事業：	04	文化・芸術活動の推進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	子育て世代の親子を対象とした文化・芸術鑑賞に関するイベント参加者数 文化会館を拠点とした文化・芸術鑑賞に関するイベント参加者数		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	文化振興・図書館担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和59年度 ~		新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画			
1. 対象 (誰、何に対して事業を行うのか)			2. 手段 (事務事業の内容、やり方、手順)							
筑紫野市文化協会			<概要> 筑紫野市文化協会は、昭和59年の設立以来、文化団体相互の交流・育成を図りつつ、広く市民に文化芸術の振興と本市における文化意識の高揚を目的とする団体である。 <主な事業> 「ちくしの芸術祭」の主催、福岡 ブロック(筑紫地区および糸島市)「芸術の祭典」への参加、先進地視察研修 <補助対象事業> 社会教育振興事業補助金として、広く市民が芸術に触れる機会である「ちくしの芸術祭」に対し交付している。							
3. 意図 (この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)										
・筑紫野市文化協会への加盟団体が増加し、市民の芸術文化事業が盛んになる。 ・安定した運営がおこなわれる。 ・次世代を担う人材が育成され、未来に渡り文化団体の活動が継続している。										
4. 成果 (簡易評価は未記入)										
成果指標名称		単位	02年度 実績	03年度 実績	04年度 当初	05年度 要求	06年度 計画	07年度 計画	目標	
加盟文化団体数		組織	36	35	38				38	
「ちくしの芸術祭」への参加人数		人	0	1,271	2,395				2,700	
5. コスト										
事業費		計	千円	200	500	200	200			
		国	千円	0		0	0			
		県	千円	0		0	0			
		地方債	千円	0		0	0			
		その他	千円	0		0	0			
		一般	千円	200	500	200	200			
正職員人工数		人工	0.1	0.1	0.1	0.1				
正職員人件費		千円	803	792	773					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	1,003	1,292	973	200				
6. 成果状況及びコメント (簡易評価は未記入)										
あがっている  どちらかといえばあがっている  あがっていない (停滞・低下)	<状況>会員数については、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたが、新規加入もありトータルでは横ばいといえる。 <原因>コロナ禍で思うように文化活動ができず、団体の高齢化を理由に会員数の減少がある。一方、若者のダンスサークルが入会するなど新たな会員の増加は、地道な宣伝活動等の成果である。									
7. 評価及びコメント (簡易評価は未記入)										
対象動向	維持	類似事業	なし	次世代への育成を図る必要がある。						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし	コロナ禍において入場を制約しなければならない状態が続き、今後の文化活動の在り方を検討する必要がある						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし							
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり							
成果向上余地	中程度									
8. 改善改革案 (簡易評価は必要な場合のみ記入)						改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用 (維持/事業終了の場合は記入する必要なし)										
本市主催のイベントが「ちくしの芸術祭」となっており、今後、文化・芸術触れる新たな機会が必要であると思われる										
事業開始背景及び現在の環境変化 (市民・議会等の要望)						備考・特記事項 or 進行管理欄				
昭和59年の文化会館建設時に関係団体として申請し、芸術文化の振興・育成のために補助を開始した。加盟団体の会員だけでなく、多くの市民が芸術文化に親しむことができるような事業や行事の実施が望まれている。										

事務事業名 人形劇のあるまち推進事業

出力日：令和05年04月27日

キーコード：1070

施策：	21	歴史・文化の継承と振興	財務コード	01090608-11-00
基本事業：	04	文化・芸術活動の推進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	子育て世代の親子を対象とした文化・芸術鑑賞に関するイベント参加者数 文化会館を拠点とした文化・芸術鑑賞に関するイベント参加者数		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	文化振興・図書館担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画				
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）								
ちくしの人形劇まつり実行委員会			平成15年度のプレ国民文化祭を契機に始めた事業である。人形劇の観劇を通して、子どもたちの感性を育むため、子どもに関する団体や劇団を中心に実行委員会を組織し開催している。								
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）											
人形劇に親しみ、特に実際の社会体験を積むことができない就学前の子ども達が劇に入り込むことにより社会経験を積み、豊かな情操を育て、社会規範を身につける。											
4. 成果（簡易評価は未記入）											
成果指標名称		単位	02年度 実績	03年度 実績	04年度 当初	05年度 要求	06年度 計画	07年度 計画	目標		
人形劇まつり来場者数		人	120	0	2,100				2,500		
5. コスト											
事業費		計	千円	235	2	800	800				
		国	千円	0		0	0				
		県	千円	0		0	0				
		地方債	千円	0		0	0				
		その他	千円	0		0	0				
一般	千円	235	2	800	800						
正職員人工数		人工	0.7	0.7	0.7	0.7					
正職員人件費		千円	5,620	5,545	5,410						
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	5,855	5,547	6,210	800					
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）											
あがっている		令和4年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため入場者を制限し開催した									
どちらかといえばあがっている											
あがっていない（停滞・低下）											
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）											
対象動向	維持	類似事業	なし	演じる劇団員、お世話する実行委員ともが高齢化しており、人形劇存続のためには次世代育成が課題となる。							
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし								
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし								
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり								
成果向上余地	中程度										
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）			改善方向性		維持	見直し	廃止	事業終了			
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）											
新型コロナウイルス感染症対策を講じた開催方法を検討											
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）			備考・特記事項 or 進行管理欄								
平成15年度のプレ国民文化祭を契機に始めた事業である。平成17年度以降は県民文化祭の事業として行っているが、県の助成金は平成23年度で終了した。一方、子どもの教育への関心は年々高まり、また、人形劇を文化として根付かせ、地域づくりに活かしていきたいという声がかかれ、その機運が高まりつつある。											